

生きる力を育てるPTA活動

沼田市立利南東小学校PTA 会長 池亀雅志

本校は、関越自動車道沼田ICの東南部、沼田台地の河岸段丘下部にあり、背後には美しい岩山、前面には片品川を有する風光明媚な地域に位置しています。かつては純農村地帯でしたが、現在はサラリーマン家庭が大部分を占め、急激に都市化が進み徐々に児童数も増加しています。本年度は児童数319名、PTA会員数は250名です。保護者の教育に対する関心は高く、子どもと共に活動するPTA行事や学校行事には積極的に協力しています。特に、文科省人権教育研究校指定2年目にあたり、学校・家庭・地域あげて、「互いに認め合い、共に生きる子どもの育成」をめざし、人権教育の充実に取り組んでおり、子どもたち一人一人を認め、互いに協力し合い、命を大事にし共に生きていく力を育てるために、学校とPTAが一体になった活動を継続しています。

1 昨年度から本年度にかけてのPTA活動の主な内容は次の通りです。

- (1)今年度日曜参観で「いのちを育む講座」講演会を親子で一緒に聴きました。
- (2)社会体育など地域で活躍する場合の熱中症の対応やプール開放における子どもを守るために「心肺蘇生法普通救命講習会」を実施し、60名ほどが修了証を頂きました。
- (3)地域を理解し、地域の未来を考えるため、また、これからの生活でなくてはならない道具である「包丁」が使えるように「リンゴの皮むき大会」の活動を支援しました。
- (4)生涯を心豊かに生きるための導入として、「読み聞かせ」を実践しています。
- (5)子どもの安全を確保するため、朝の交通安全指導、「パトロール中」の車載カードを作成して街頭パトロール等で活用、PTA会長名で「こども安全協力の家」を指定し協力を依頼（17年5月現在38軒指定）しました。

2 命を育む講演会

「命」とは、人間にとってかけがいのないものです。児童に自分の「命」や「命そのもの」について考えさせ、自分自身をかけがいのない存在として意識させることは人権教育を進める上で重要な学習であると考えます。今年度の日曜参観では、県の助産師を外部講師として招き、3年生以上を対象に親子で「命を育む授業」を行いました。多くの保護者が参加してくれました。

【児童の感想】

『私は命を育む講座をきいて、命は本当に大切なんだなと思いました。お腹の中の赤ちゃんは小さくてもきちんと生きているんだと思いました。私は胎児人形を抱いてみて、3ヶ月の赤ちゃんはかなり軽いだろうなと思ったけど、意外に重くてびっくりしました。5ヶ月も重くてびっくりしました。生まれたばかりの赤ちゃんは、予想以上に重くて落としそうになったけれど何とか大丈夫でした。私は、今以上に命や家族、友達を大切にしないといけないなと思いました。助産師さん、ありがとうございました。』（5年 女子）

『ぼくはおなかの中からでてきたときははじめて息をすと思いました。でも本当はおなかの中でも息をすることがわかりました。ぼくがおなかの中にいたころは10か月ぐらいで重くなったそうです。ぼくはだいてみて「すごく重い!!」と思いました。でも三ヶ月目の赤ちゃんはとても小さくて米つぶぐらいの大きさでとてもかるかったです。ぼくはさいごに先生からこういうことを教えてもらいました。「生きているだけで100点まん点」。とても楽しかったです。』（3年 男子）

【保護者の感想】

『見ていて何度も涙が出そうになりました。「生きているだけで100点満点」という言葉も前に聞いたことがありましたが、こうして聞くとまた、深みのある言葉だと思いました。見て、体験して、子どもたちが感じるものが多かったと思います。とてもよかったです。これからも是非続けて行って欲しいと思いました。ありがとうございました。』

『一人に一つしかない命を大切にする。自分の命も他人の命も大切にする。自分の命も他人の命も同じように大切だと言うことを、この講座を聴いた人たち全員が感じられて良かったと思いました。』

『・・・みんなに祝福してもらって生まれてきたことを子どもに伝えていきたいと思います。世界にたった一つだけの大切な命、これからも大切にしたいと願っています。』

3 バリアフリートーク & コンサート

児童に障害のある人たちに親しみを感じるだけでなく、プロとしてのすごさ、音楽に対する真摯な姿勢に触れ、障害のある人たちのがんばりや、すばらしさを感じ取って欲しいと考え、バリアフリートーク & コンサートを開催し、すばらしい演奏とトークを聴かせていただきました。PTAとしても全面協力し、多くの保護者に参加してもらい、資金援助もしていただきました。演奏会の内容は、歌曲「オオソレミオ」「宝石の歌」や盲導犬オ

ナーの話など、フルート演奏「メロディ」「きらきら星変奏曲」など、講話「点字付きトランプや音声の出る携帯電話、折りたたみ式白杖など、視覚障害者たちの強い味方について楽しいトークで紹介」など、プロの演奏と歌、人権に関わる講話など、児童も保護者も教職員も、感動と温かい心の広がるひとときでした。

【児童の感想】

『ソプラノ歌手はびっくりするほど声が高いし、もうどう犬オナーはちゃんとめいれいをきいてそのしじにしたがって「えらいなあ」と思いました。あとフルートをえんそうしたかたは、目が不自由なのに、ものすごく手さばきが早く、ちゃんとどこをおすとどんな音がでるのか分かっていてすごくよかったです。』『・・・そしてフルートをえんそうしたかたがトランプでカードを当てるマジックをしてくれました。ぼくは「目が不自由だから大変かなあ」と思ったけど、みごとに当てました。それはトランプに点字が付いていて、点字をよんで当てたと言うので、ぼくは「なるほどなあ」と思いました。えんそうしている時の二人のかおは、本とうにしんけんでした。』

視覚障害を持つ方たちと言っても、その障害を乗り越えたすばらしい名演奏家でした。これほどの見事な音楽会に、学校の体育館というごく身近な場所で接することができる機会を得、障害を自分たちの工夫や努力で乗り越え、プロの演奏家として立派に活躍している姿を目の当たりにし、児童はもちろん、わたしたち大人の方が学ばされることが大きかったように思います。

4 ふるさと体験学習（リンゴの皮むき大会）

(1) 日 時 平成17年11月15日 (金) 2校時～5校時

(2) 場 所 利南東小学校一階多目的 ホール

(3) 参加者 5,6年児童 PTA本部役員、5・6年母親委員、学校職員

この活動は、昭和62年に「リンゴの皮むき大会」としてPTA主催で行われました。その後、しばらく空白の期間がありましたが、9年前から、6年生が中心となり、学級活動の時間や、総合的な学習の時間を使って取り組んできました。平成13年度からは、再度PTAと連携する形で、地域と連携し、本学区の名産品であるリンゴに対して興味・関心を持たせること、また、家庭科の包丁等の刃物の扱いに慣れ、今後も安全に利用するよ

うに意欲を喚起すること、3年生の総合的な学習の時間『リンゴのひみつをさぐる』の発展的学習に位置づけ、深化させることをねらいとして実施しました。

P T Aの役割は「模範演技」「包丁のあて方の指導」「むき方のコツ指導」「長さの計測」「審判」「安全管理」などです。リンゴ150個ほどの費用はP T Aから出させていただきました。

はじめに、P T A母親委員の模範演技をしました。子どもたちは、するするとつながってくるリンゴの皮に感嘆の声をあげていました。次に、包丁の当て方、皮のむき方指導をしました。1時間に一クラスの子どもたちが4～5人ずつ皮をむきます。切れたときはそこからまたむき始め、一番長い皮の長さを測定します。各クラスの中で、皮の長さが最長の子どもをクラス・チャンピオンとし、大会に参加した全クラスの中で最長の子どもをグランド・チャンピオンとしました。なかなか模範演技のようにはいきませんでした。どの子も真剣に取り組み、自分でむいたリンゴをおいしそうに食べていました。

【児童の感想】

『「包丁の刃は、下向きにするんだよ。」とP T Aのお母さんがアドバイスをしてくれました。でも、自分でやると思うようにむけません。80cmくらいいったら、ポロッと切れてしまいました。でも80cmくらいまでいったからよかったです。自分でむいたリンゴはとってもおいしかったです。』

5 学校朝礼での講演 歴代P T A本部役員のカリヤ講話

カリヤ教育の一環として学校朝礼で地域の方々の講話を行っていますが、今年は歴代P T A会長さんに10分間程度のお話をして頂きました。

6月26日 17年度会長 主な内容『歯科医師として歯の大切さと健康についてクイズ形式で楽しくわかりやすくお話しいただいた。』

7月11日 16年度会長 主な内容『病院の検査技師として、顕微鏡を通してみた健康の大切さについて、具体物を通してお話しいただいた。』

10月31日 15年度会長 主な内容『りんご園を経営する中で、リンゴの仕組みと育て方の工夫など、パネルを活用してわかりやすく説明していただいた。』

11月28日 14年度会長 主な内容『学生時代から活躍したウエートリフティングとの出会いとその活動を通して学んだことを熱っぽく語っていただいた。』

6 まとめ

P T Aは、子どもの幸せを願って、親と教師が相互に援助・協力しあう関係を作り上げていくものなのだということを、子どもと共に行動したり、地域の方々と関わって活動していく中で理解することができました。昨年度から今年度にかけて人権教育研究校として、子どもたちが互いに認め合い、思いやりの心を持って共に助け合って生きていけるようP T Aとしても協力してきました。また、子どもたちの安全対策として、車載用カード「パトロール中」の活用、「こども安全協力の家」の指定、不審者対応避難訓練へのP T A本部役員の協力、交通安全教室への補導部の協力など、安全対策にも力を入れてきました。仕事をしながら、P T Aとして、多くの時間を活動のために生み出すのは大変ですが、得るものも多く、貴重な体験になっています。

今、子どもたちの安全が脅かされ、安心して生活できる環境を維持し、守っていかなければなりません。私も含めて、保護者全員が一体となってP T A活動を盛り上げ、子どもたちの幸せを守り、生きる力を育てていくことがさらに重要性を増していると思います。